

株式会社クラレ「2024 年度第 1 四半期本決算説明会」質疑応答要旨

日 時 2024 年 5 月 14 日 (火) 15:00～16:00

場 所 クラレ本社 ※電話会議にて実施

説明者 代表取締役・専務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治

IR・広報部長 滝沢 慎一

1. 主要製品の数量伸長率

	23 年上期実績 →24 年上期見通し	23 年下期実績 →24 年上期見通し
光学用ポバールフィルム	+10%弱	▲約 5%
水溶性ポバールフィルム	+5%弱	▲10%強
PVB	▲5%強	+5%弱
〈エバール〉	▲約 10%	+5%弱
ポバール樹脂	+約 15%	+約 10%
エラストマー	+約 10%	+約 10%
〈ジェネスタ〉	+約 10%	+約 15%
活性炭	+10%弱	+約 5%
ビニロン	若干マイナス	+約 15%

2. 質疑応答

Q1 ビニルアセテートの 24 年 1Q の状況について。

A1 23 年 4Q から 24 年 1Q で数量がプラスとなったのは光学用ポバールフィルム、ポバール樹脂、PVB。ただし、光学用ポバールフィルムは、23 年 4Q に実施した在庫調整の影響により若干の減益となった。PVB は、原燃料価格の変動に合わせた販売価格の調整により若干の減益となっている。ポバール樹脂は比較的大きく数量が増え、営業利益はプラス。数量がマイナスになったのは水溶性ポバールフィルム、エバールだが、エバールは 24 年 2Q に米工場で予定している定修前の在庫積み上げがあり、営業利益は増益貢献している。
24 年 1Q から 2Q は大幅な減益となるが、大きな理由はポバール樹脂とエバールの定修である。

Q2 4 月 10 日に決定した米国の飲料水に対する PFAS 規制の活性炭事業への業績影響について。

A2 規制値そのものは草案通り。米国で公表された PFAS 規制では、3 年後に初期モニタリング値の公表が義務付けられており、汚染地域については 3 年以内に対応することが想定される。PFAS 除去への対応の完了時期は 5 年後となったが、需要は最初の

3 年間に増加すると考えている。引き合いは大手の浄水場等からいくつも来ている。業績影響は現在まとめており、詳細は 6 月に予定している経営説明会で説明予定である。

なお、24 年 2 月に米国で新しい新炭の製造ラインが立ち上がった。まだフル稼働ではないが、かなり高い割合で稼働している。販売数量も着実に伸ばす計画としており、24 年度から償却額を上回る利益を得られると見込んでいる。

また、本日 5 月 14 日に米国での新たな拠点として産業用再生炭事業の買収を公表した。新たな拠点をテキサスに持つことになるが、再生炭は顧客に近いロケーションが大きな強みになる。産業用についても、今年か来年に PFAS 規制のガイドラインが公表されると見込んでおり、非常に期待している。これから PFAS 関連需要が高まるのに合わせて、当該拠点での設備拡充も図っていききたい。

Q3 上期営業利益の上方修正の背景について。

A3 ビニルアセテートセグメントは、光学用ポバールフィルム、ポバール樹脂、エバールが増益方向である一方、PVB が減益となっている。イソプレンセグメントは、ジェネスタが増益貢献している。機能材料セグメントで貢献しているのはメディカルである。

Q4 構造改革の状況について。

A4 詳しくは言えないが、事業ポートフォリオの高度化の一環として、事業や製品群の見直しを進めている。24 年は特別損失で数十億円を見込んでいる。

Q5 イソプレンセグメントの 23 年 4Q から 24 年 1Q の利益改善要因について。

A5 23 年 4Q は、7 月に実施したタイ工場の定修影響、ジェネスタで低価法による在庫評価額切下げの影響があった。24 年 1Q はこれらの要因が無い一方で、増益要因として、24 年 2Q に実施する定修のための在庫積み増しがあった。

Q6 自社株買いの継続性について。

A6 継続性を持って株主還元を充実させていきたいと考えている。総還元性向の方針自体を変えるかは決定していないが、方針はあくまでも守るべき最低ラインであり、22 年、23 年の実績としては総還元性向 35%以上を還元してきている。

Q7 イソプレンケミカル、エラストマーの需要回復状況について。

A7 まだ回復してきているとは言えない。自動車用途は需要が堅調に推移しているが、例えばイソプレンケミカルの建築用途に使われる化学品は、中国を始めとした不動産・建築業界の不況の影響を受けている。エラストマーに関しては、競争環境が厳しくなっている。利益と数量のバランスを見ながら販売拡大を目指していく。

Q8 ポバール樹脂の販売数量が増加した背景について。

A8 当社はポバール樹脂を世界の多拠点で生産している。地政学的な影響により海上運送

に問題が起きている中で、顧客の近くで生産し、タイムリーに供給できる強みを背景に、受注を増やすことができた。

以上

注意事項

本資料は、説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、理解しやすいように当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性 があることをご了承ください。